

イベント取材の夢が消えた後 (その6)

神谷 直亮

東京、大阪、愛知などで大規模なリアル展示会が始まっている。9月には、幕張メッセ(千葉)でも再開され本格的になってきた感じがする。マスクの着用、体温測定、手指消毒、飛沫防止シート、座席間隔の確保など、徹底した感染対策を取っての開催であることは言うまでもない。筆者も10月21日からビッグサイトで始まるリアル展示会「コンテンツ東京2020」と青海展示場で開催される「RISCON/SEECAT」の対面取材を楽しみにしている。

それまでの間、重い腰を上げて10月14日にヤマダデンキ LABI 渋谷店へ行ってきた。リアル展示会の予行演習のつもりでの決行であった。

目的のLABI 渋谷店のテレビコーナーには、かなりの変化が見られた。まず、4K有機ELテレビのコーナーにシャープとFUNAIが加わった。

「漆黒の表現と8K映像技術で培った圧倒的な映像美」を謳ったシャープの「CQ1」4K有機ELテレビは、65インチと55インチの2種が展示されていた。5月から販売しているという65インチには39万円、55インチには26万円の値札が付いている。

FUNAIの4K有機ELテレビも65インチと55インチで、マルチディレクション型(7030シリーズ)とフロント型(6030シリーズ)の2種がある。

4K液晶テレビには、ドンキホーテとアイリスオーヤマも参入しているというから、有機ELも液晶もより取り見取りの状態になっていると言ってよい。

次いで、シャープの独断場であった8Kテレビのコーナーに、ソニーとLGが加わった。3月に「史上最高のクオリティ」と銘打って発売されたというソニーの8Kチューナー搭載液晶テレビは、まだ85インチ1サイズで型名は「BRAVIA KJ-85Z9H」だ。店員によれば、「NHK BS8K放送を視聴・録画できるチューナーを2基搭載している

という。価格については「190万円」と答えていた。

6月に発売されたLGの8Kテレビは展示されていなかったが、77インチと88インチの有機ELテレビと65インチと75インチの液晶テレビがあるという。

さらに、東芝の「豊富なネット動画をとことん楽しむ」を謳ったテレビが目についた。「V34」シリーズでリモコンに「Prime Video」「Netflix」「YouTube」「dTV」「ABEMA」「Hulu」「U-NEXT」など、ネット動画配信サービスへのディレクトボタンが配置されているのが特色である。また、「みるコレ」ボタンを押すとたくさんあるサービスの中から人気の動画を紹介してくれる。フルHD画質であるが、24、32、40インチの3種が揃っている。

テレビコーナーの後、カメラコーナーへ廻って見たらキヤノンのミラーレス一眼カメラ「EOS R5」と「R6」のPRが盛んにおこなわれていた。

「R5」は、世界初8K(8192 x 4320)30p、12bit RAWの内部記録ができるカメラとして7月末に売りに出されたものである。店員によれば、「キヤノン新開発の35mmフルサイズCMOSセンサーと映像エンジンDIGIC Xを搭載しており、すべてのEOSを上回る解像性能を有している」という。価格を聞いてみたら「ボディのみで46万円」とのことであった。

「フルサイズミラーレスの新標準へ」を掲げて8月末に発売された「R6」については、「常用最高ISO感度102400の高感度性能と高速性能を持つ。4K 60p動画の内部記録ができる。価格は、ボディのみで305,000円」と説明していた。

話は変わって、楽ごもりの原因となっている新型コロナウイルスに関しては、日本経済新聞10月10日号に興味深い記事が掲載された。矢野寿彦編集委員が執筆した「命か経済かには解がない」である。その趣旨は、「感染抑制と経済回復の二兎を追う戦

略は危うい。ある程度の感染を織り込んで進めないと、一兎をも得ずになりかねない」というもので、対策が過剰と受け止められてしまうと社会に「命か経済か」というイデオロギーの対立を生んでしまう。従って、感染者ゼロは目指さないで、一定数以下にコントロールできていれば良いとする。一方、景気刺激策にもかかわらず、経済の先行きが見通せないのは、「コロナに対する底知れぬ不安を抱く人が今なおたくさんいるからだ」という。「過度な恐怖が国民心理の委縮を招き、経済に大きなダメージになっている。硬直的な考えを改めなければ、厄介なウイルスに翻弄され続けることになる」と説く。

毎日新聞10月13日号では、「コロナ免疫機能かく乱」と言う大見出しで「新型コロナが人間の免疫機能を巧みに抑え込んでいることが分かってきた」と、「体内対抗物質(インターフェロン)の働き抑制」説を取り上げている。つまり「新型コロナが持つ遺伝子から作られるタンパク質が、人間の免疫細胞を活性化させるインターフェロンと呼ばれるたんぱく質の生成を邪魔することが分かった」という。多くのウイルスは、インターフェロンの生成を抑制する能力を持つが「新型コロナは、けた違いに強い」ようだ。

同日の日本経済新聞には、小林慶一郎慶応大学客員教授による「コロナと経済改革加速を」と言う論説が掲載された。同客員教授は、「接触確認アプリの登録、接触通知、PCR検査というサイクルが回れば、効率的に感染抑止が行える。ただし、保健所の介在なく機能し、システムにエラーがない接触確認アプリの普及が必要」と述べている。一方、経済改革については、「接触型の産業(飲食、宿泊、観光)は、長期的に需要が減少すると見込まれ、事業構造改革を余儀なくされる。改革に早期に着手し成功させるには、過剰債務の削減が必須である」という。このためには、「政府が、債務削減を実行



写真1 LABI 渋谷店のテレビコーナーでは、シャープが5月に発売した同社初の4K有機ELテレビ「CQ1」が注目のになっていた。



写真2 キヤノンの「EOS R5」は、世界初8Kの内部記録ができるミラーレス一眼カメラとして注目を集めている。(出典：キヤノンのEOSホームページ)



写真3 10月16日付け朝日新聞は、「第2波 欧州の悪循環」と言う大見出しの記事を載せて読者を驚かせた。

しやすくする政策を創設し、先送りしても出口はないという時間軸のある明確なメッセージを示すことが必要」と強調している。

10月16日の朝日新聞を見て驚いた。「第2波 欧州の悪循環」と言う大見出しの記事では、「欧州各国で新型コロナウイルスの感染拡大の第2波が起きている。経済復興を優先し、行動規制を大幅に緩めてきたためだ」と警鐘を鳴らしている。フランスでは、10月17日から9都市圏で夜間の外出が禁じられ、違反者には135ユーロの罰金を科すというから、かなり深刻な事態と思われる。

変わったところでは、中央公論11月号に「ナウシカのかたわらで、コロナを想う」という意表を突くタイトルの記事が掲載された。執筆者は、「ナウシカ考」(岩波書店、2019年11月)を出版した学習院大学の赤坂憲雄教授である。同教授は、「風の谷のナウシカでは、腐海のほとりで暮らす人々にとってマスクが欠かせない。このマスクのある光景は、新型コロナ時代と共振する」と指摘する。しかし、ナウシカのマスクのある情景と新型コロナのマスクは、似ているようで似ていない。その謎を解くカギは、「ナウシカのマンガ版では、やがて、人間の身体そのものが汚染に耐えられるよう改造されていたからだ」という。最後に、「いま

マンガ版『風の谷のナウシカ』が予言書として再発見されようとしているのは、いまだ未開の生命をあやつる技術のかたわらで、野生/人為のあわいに揺れながら、新型コロナウイルスがみずからのアイデンティティを求めて彷徨している」からと推量している。

感染者についてのニュースも相変わらず飛び交っている。10月17日付けの産経新聞によれば、「米国での新型コロナウイルスの累計感染者数が10月16日現在で800万人を超えた」という。各州の傾向を詳しく見ると、過去2週間に41州で増加が見られ、現状をほぼ維持しているのは9州、減少傾向を示した州は皆無とのことである。誰が見ても、4月、7月に続く第3のピークを向けていると言える。

ちなみに、米ジョンズ・ホプキンス大学の集計によれば、10月16日現在、新型コロナウイルス感染者数が多い国のベスト5は、次の通りである。()内は死者数。

アメリカ	7,980,461人 (217,700人)
インド	7,370,468人 (112,161人)
ブラジル	5,169,386人 (152,460人)
ロシア	1,361,317人 (23,580人)
アルゼンチン	949,063人 (25,346人)

2019年末に中国で最初の患者が確認されてから約10か月となる現時点で、米国が最大の感染者を抱えているというのは、歴史の皮肉としか言いようがない。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE EGO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

Communications k.k.